

ほご犬を家族に

三年 杉田紗奈

わたしの家には犬が二ひきいます。一ぴきは、アレルギーがありペットショップで売れのこつていた五才の男の子のリヤン。もう一ぴきは去年の九月に家に来た、三才のほご犬の女の子のマーチです。リヤンと家族になって二年くらいたったころから、

「次はほご犬をむかえたいね。」

と、家族で話をしていました。ほご犬のことをあまり知らなかったわたしは、お父さんやお母さんに話を聞いたり、テレビを見て少しづつほご犬のことについて知っていました。そして、早く新しい家族をむかえたいなあと思い、わたしもリヤンのお世話をがんばりました。

わたしたちは、「おっほの会」というあい知県にあるほごしせつでマーチと出会いました。たくさんのかわいい犬たちとふれ合い、家族みんなで、

「この子がいい！この子しかない！この子と家族になりたい！」

と、思ったのがマーチでした。マーチを家族としてむかえるためにいろいろなじゅんびをして、マーチが来る日をとっても楽しみにしていました。マーチが来た日のドキドキとワクワクを、わたしは今でも

わすれることはありません。

マーチが家に来る前に、ほご犬についても一度くわしく家族で話をしました。いろいろな話を聞くと、つらくなったり悲しくなったりすることも多かったですけれど、その分マーチをぜったいにしあわせにしたいと強く思いました。

マーチが家に来てからの数日間は、ふあんそうな顔をしていろいろな音にもこわがっていませんでした。でもすぐになれ、今ではなでてほしいとたくさんあまえてきたり、たくさんだっこもさせてくれたり、おさんぽにも行けるようになりました。リヤンとも、一つのベッドでいっしょにねたり、おやつをなかくまったり、とてもかわいくて、とてもうれしい気持ちでいっぱいです。

マーチは、シエルターで「マチ」という名前でしたが、家にむかえてから「マーチ」にかえました。「マーチ」には「行進・進む」という意味があります。

「家族みんなで足なみをそろえて、しあわせな犬生を進んでいこう」と、という思いをこめてつけました。これからずっと、マーチとリヤンがしあわせにくらせるように、がんばっていききたいと思います。そして、少しでもほご犬について知ってもらえるように、ほご犬のことをつたえていききたいと思います。ぜひみなさんも、ほご犬を家族にむかえてみてください！